

看護師を目指す留学生のための実習に即したライティング教材の開発

山元一晃・加藤林太郎（国際医療福祉大学）

<共同研究者>浅川翔子（同上）

1. 教材開発の背景と目的

大学や専門学校などで看護師を目指す留学生は、現場での看護記録を模した書類のみならず、実習の行動計画や、施設の調査などを所定の様式に記入するような課題も求められる。これらは、多数出版されている一般的なアカデミック・ライティングの教科書（たとえば、アカデミック・ジャパニーズ研究会 2015 など）では扱われない。また、少なくとも最近10年間の間に、看護記録や実習記録の書き方を中心とした留学生向けのテキストは出版されていない。

一方、経済連携協定（EPA）により来日した看護師候補生のための日本語教育の知見は増えつつあり、海外産業人材育成協会（2011）は、病院内でのコミュニケーションや記録の記入を含む総合的な日本語教材となっている。しかし、この教材での様式は、実務を想定したものであると考えられるため、看護を学ぶ留学生にとって必要十分な内容になっているとは言い難い。

また、看護学生を対象とした教材も多数存在するが、留学生の使用は想定されていない。例えば、石川（2016）では、内容面での過不足や、看護独特の言い回しなどの紹介はあるが、箇条書きの書き方や名詞化の方法など、留学生向けの教材である小森・三井（2016）等で扱われているような項目は含まれていない。

上記の状況に鑑み、発表者は、看護学科の教員と共同で、①「実習を含む大学等での学びに即していること」、②「非母語話者を対象とした専門分野における日本語教育に有用であること」を念頭においた新しい看護学生向けライティング教材を開発した。

2. 教材開発の過程と教材の内容

日本語教師である発表者2名と看護学科の教員である共同研究者1名が定期的に打ち合わせを行い教材開発にあたった。まず、共同研究者の所属学科において課されるレポート・実習記録等を整理した。そこから、看護教員の視点で重要であると考えられる課題および日本語教員の視点で留学生にとって難しいと考えられる課題を抽出した。また、基本的な編集方針として、学生の実習の過程に即した順序で提示し、実習前にそれを擬似体験できるようにした。発表者および共同研究者による協議の結果、以下の内容とすることに決めた。

【第1章】 実習前

・第1課 私の理想の看護師

- ・第2課 施設情報
- ・第3課 行動計画
- 【第2章】 実習中
 - ・第1課 患者情報の記録
 - ・第2課 1日の振り返り
 - ・第3課 看護展開
 - ・第4課 看護計画
 - ・第5課 先生とのメール
- 【第3章】 実習後
 - ・第1課 まとめのレポート

第1章（実習前）の第1課では、実習の前に自分自身の看護観を確認するためのレポートを書く。看護観は、「自分の体験を整理分析し理論化し先駆者の理論と関連付けて書いたもの（高谷 2017）」であるという。そのため、主観的な内容と、客観的な内容を織り交ぜて書く必要がある。また第1章（実習前）の第2課、第2章（実習中）、第3章（実習後）は、実習中や実習前後に書く様々な文書（行動計画、施設情報シート、看護記録等）への記入を中心としている。看護観を書くレポートや、実習記録への記入は一般的なアカデミック・ライティングの教材にはなく、本教材の大きな特徴である。また、特に多種多様な項目についての記入を含む点で、海外産業人材育成協会（2011）のような看護師候補生向け教材にもない特徴である。

次に、執筆過程について述べる。まず、共同研究者が見本を作成した。その後、加藤が、その見本を改悪した。これは、悪い見本を批判的に読むことで、自分が書く際にも批判的に書けるようにとの狙いである。その上で、山元が、改善点および改善の方法を詳しく解説した。加藤が、各改善点について、それぞれ、練習問題を付した。最後に、全体の手本を示し、白紙の様式に記入する練習を加えた。このような形式は、石川（2016）等他の看護学生向けライティング教材にもない特徴である。

3. 各課の構成

本節では、各課の構成について述べる。各課の構成は以下の通りである。

- 第1部 どこを直したらよくなる？
- 第2部 どうしたらもっとよくなる？
- 第3部 練習

まず、第1部では、看護教員の作成した手本を、3名で協議の上改悪したものを学習者が見て、どのように直したら良いのかを主体的に考える。このページのヒントは、修正すべき箇所についた番号のみである。第1部の例として第2章の一部の見本を図1に示す。

ここでは、実習に行く予定の施設について調査し、様式に記入する。注目すべき箇所には、番号が振ってあり、第2部以降この番号に従って解説が示される。

実習施設の概要

年 月 日
実習グループ：
学籍番号：

施設の概要	
施設名	●●リハビリテーションセンター
施設の理念	私たちが目指すのは、「多様な価値観で互いを尊重し共に生きる社会」です。そのために、次のような特色ある取り組みを展開しております。
職員構成 (人数、職種)	リハビリテーション専門医はもちろん、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士といったスタッフが60名程度在籍し、週に1度(水曜日)に多職種カンファレンスを行うことで、利用者様とその周囲の方々の状況を共有し、問題と目標を明らかにすることで、よりきめ細かな支援を行っております。
看護師の役割	医師の診療を手伝い、病人の看護をすること

図1 第1部の例(第2章)

次の第2部では、図1に振られている番号に従って解説が加えられる。解説の執筆は、発表者、共同研究者と協議をしながら行った。第2部の例として、第1部と同様に第2章の例を図2に示す。

① ウェブサイトの情報をそのまま書いてしまい、不必要な情報が入っていたり、不自然な日本語になっていたりしませんか。

例1

施設の理念	私たちが目指すのは、「多様な価値観で互いを尊重し共に生きる社会」です。そのために、次のような特色ある取り組みを展開しております。
-------	--

✓ ウェブサイトの情報をそのまま書いていて、項目に合っていない。

✓ 必要な情報と必要でない情報が含まれている。

この項目は「施設の理念」を記入することになっています。ここに記入されている文章のうち、理念が示されているのは、前半の部分だけです。前半だけを抽出するようにしましょう。この文の場合、「私たちが」の部分も不要です。改善例のように、直すとシンプルでわかりやすいです。

改善例：

施設の理念	「多様な価値観で互いを尊重し共に生きる社会」を目指している。
-------	--------------------------------

図2 第2部の例(第2章)

まず、図1の番号に対応する番号が示され、何が問題であるのかを端的な疑問文で示

す。その上で、具体例を示し、注目すべきポイントを箇条書きで1～2点示す。さらに、より詳しい説明を付す。最後に、改善された例が示される。その他、使い方や注意点などを詳細に説明する必要のある箇所については、コラムを付した。

各部のまとめとなる第3部は、第2部で説明したそれぞれのポイントについての練習問題と、実際に様式に記入する練習問題からなる。第3部の例として、第1部、第2部と同様に第2章の例を示す。図3はそれぞれのポイントに対応する練習問題である。

①大事な名詞を取り出そう（箇条書き）

Q1：「目的・特色」の項目から、「利用者」「職種」の情報を「全て」書き出しましょう。

(1)利用者の特徴

(2)このセンターの職種

Q2：職員は何名程度在籍していますか。どこに書いてありますか。

_____名程度（_____）に書いてある。

Q3：Q1～2の情報をフォームに記入してみましょう。

利用者の概要	
利用者の特性	_____ ・ _____（_____） ・ _____ ・ _____

施設の概要	
利用者の特性	（_____） _____ _____ _____

POINT！ 上位概念や、全体を表す語は、「上」「左」に。
 下位概念の語は、「下」「右」「（_____）の中」に

図3 第3部の例（第2章）

実際に様式に記入する課題は、図4、図5のようになっている。まず、図4のように課題の問題文と、第2部での解説を踏まえた手本が示される。この手本を参考に、図5のような未記入の様式が示されたページに記入する。このように段階を追って、練習をすることができる。

【課題】

自分の住んでいるところに近い病院やリハビリ施設について、ウェブサイトで情報を集めて、フォームに記入してください。

施設の概要	
施設名	●●リハビリテーションセンター
施設の理念	「多様な価値観で互いを尊重し共に生きる社会」を目指している。
職員構成 (人数、職種)	60人程度。リハビリテーション専門医、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士。
看護師の役割	・バイタルサインなどより早期異常発見、予防を行う。 ・利用者の全体像を把握し生活全体を支える。
他職種間の連携	毎週水曜日に多職種カンファレンスを実施しており、利用者の状況を共有し、問題と目標を明らかにしている。
実習施設のサービス内容	運動療法、日常生活動作（食事、排泄、着替えなどの日常的な活動・行為）の訓練、マッサージ、栄養指導、趣味的活動への援助

図4 第3部 手本の例（第2章）

実習施設の概要

年 月 日
実習グループ：
学籍番号：
氏名：

施設の概要	
施設名	
施設の理念	
職員構成 (人数、職種)	
看護師の役割	
他職種間の連携	
実習施設のサービス内容	

図5 第3部 課題記入様式の例（第2章）

以上、本節では、第2章を例に、各課の構成を簡単に紹介した。

4. 想定される使用法

本テキストは、実習が始まる前の大学や専門学校の1年次前半で使用することを想定しているが、基礎的な実習が終わったあとに使用することも可能である。各課内は、順を追って使用することを想定しているが、それぞれの課は独立しているため、必要に応じて取捨選択しても特に問題はない。

また、授業で使用する事が望ましいが、十分な解説を加えているため、学習者が自習用に用いることも可能だと考えられる。また、専門科目の授業において、補助教材として使用することもできると思われる。

授業で教師とともに使用する場合、以下のような使用を想定している。第1部では、悪い例を見て直した方がよいところがどこかを考えさせ、問題点を認識させる。第2部では、テキストの解説に沿って詳しく説明し、学習者のレベルに応じて文法的なことや、語彙の情報も付け加える。第3部では、第2部の各ポイントに焦点をあてたシンプルな練習問題を解き、十分なフィードバックを行った上で、第2部後半の様式への記入を行う。これも教師のフィードバックを前提としている。なお、本テキストは専門教育を補うことを前提としているので、看護教育的な観点でのフィードバックは必ずしもしなくてよい。

5. 今後の課題

本テキストは、発表者の所属大学にて使用することを前提としていたため、このテキストに汎用性があるかの確認を十分にはしていない。今後は、看護学部を有する大学への調査を実施し、大学横断で使われている課題を整理し、留学生が在籍する大学・専門学校等で活用できる教材としたい。

また、本テキストは、発表者自身が試用を開始したところである。そのため、学生からのフィードバックや、使用にあたっての問題点を検証できていない。発表者の所属大学での試用が終わり、改良や訂正等を加えた後、他大学等での試用をお願いしたいと考えている。

参考文献

- (1) アカデミック・ジャパニーズ研究会 (2015) 『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 論文作成編④』アルク.
- (2) 石川ふみよ (2016) 『実習記録・看護計画の解体新書』学研メディカル秀潤社.
- (3) 海外産業人材育成協会 (2011) 『専門日本語入門 場面から学ぶ看護の日本語 【本冊】』凡人社.
- (4) 小森万里・三井久美子 (2016) 『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版.
- (5) 高谷修 (2017) 『看護学生のためのレポート・論文の書き方：正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て」』金芳堂.